

科目名	言語教育工学特講	担当者	ホサカ 保坂 トシコ 敏子	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>現在、言語教育では、印刷教材だけでなく、e-Learning 教材や Web コンテンツ、また、ICT (Information and Communication Technology) の各種技術など、様々な教育メディアが利用されている。ICT により教室を超えた対話や学習者の自律学習が可能になり、対面授業と e-Learning を組み合わせたブレンデッドラーニングも取り入れられている。本講義では、ICT の効果的な教育利用のためにインストラクショナルデザイン (Instructional Design:ID) を学ぶ。また、オープンエデュケーション教材を使った e-Learning を実体験し、国語、英語、外国語としての日本語など各種言語の教育においてより効果的に e-Learning や ICT を利用する能力を身に付ける。</p>		
到達目標	<p>&lt;前期&gt; e-Learning の基盤となる学習理論とインストラクショナル・デザインのモデルを理解する。それを基に、言語教育の実践例を分析・評価する。 &lt;後期&gt; 「インタラクティブ・ティーチング」をテーマとしたオープンエデュケーション用の講義動画を使った e-Learning を体験して、自らの学びやこのような学習方法の利点と問題点を論述する。学んだ内容を基に e-Learning や ICT 利用した言語教育の授業デザインを立案する。</p>		
学修方法	<p>&lt;前期&gt; 1. 基本教材 1 を十分読んで、レポート課題に取り組む 2. 言語教育における e-Learning や ICT 利用の実践例を分析・評価する課題のために、関連の書籍や学会誌から広く論文を検索する。 &lt;後期&gt; 1. 基本教材 2 の Web 上の講義動画を丹念に視聴し、印刷教材の課題に取り組む。 2. 「インタラクティブ・ティーチング」に関する自らの学びと、オープンエデュケーション教材による学習方法について、クリティカルに振り返る。 3. 先行事例などを参考にしながら、インタラクティブな e-Learning の授業、ICT を利用したインタラクティブな授業のシラバスを作成する。  ★レポート作成過程で、manaba の掲示板を使ったピア・レスポンス (各受講者が書いたレポートについてお互いにコメントをし合い、推敲する協働活動) を実施する。ピア・レスポンスは、各自、初稿のチェックが終わり次第始める。</p>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt; ・レポート課題 1 締切：6 月末 ・レポート課題 2 締切：9 月課題提出締切日 &lt;後期&gt; ・レポート課題 1 締切：11 月末 ・レポート課題 2 締切：1 月課題提出締切日</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	論旨明確さ、独創性、構成、文章表現の妥当性、引用文献の適切性等
	平常評価	20%	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<p>・レポートは、初稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバックによる書き直し、ピア・レスポンスによる推敲、最終稿の完成と段階的に進める。このため、初稿の提出は締め切りより遅くならないこと。 ・レポートでは、引用のルールを順守すること。 ・レポートの制限文字数も課題の一部なので、遵守すること。指定の文字数は、参考文献、注を除いたものとする。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 鄭仁星・久保田賢一・鈴木克明            教材名： 『最適モデルによるインストラクショナル・デザイン—ブレンド型 e-Learning の効果的な手法』(東京電機大学出版局, 2008 年) ISBN:978-4-50-154390-7 1,900 円+税</p> <p>本書は、インストラクショナル・デザイン(Instructional Design: ID)とは何か、ID にはどのようなモデルがあるか、ブレンド型 e-Learning の環境をどう設計するかについて解説している。対面授業と e-Learning を組み合わせたブレンド型 e-Learning を設計する際の、背景となる学習理論から設計の手順まで学ぶことができる。</p>
参考図書	<p>日本教育工学会監修 坂本昂・岡本敏雄・永野和男編著 『教育工学とはどんな学問か』(ミネルヴァ書店, 2012 年) ISBN:978-4623063611 2,600 円+税</p>
履修上のポイント	<p>教育工学は、コンピュータや ICT などを使った「テクノロジーによる教育」だけでなく、教育過程そのものをテクノロジーとして捉え直す「テクノロジーとしての教育」を研究する役割を担っている。e-Learning による教育や ICT を利用する教育では、それらを学習環境として授業に効果的に位置付けることが重要である。ID を学び、ID を枠組みに、国語や英語、日本語等の言語の授業における効果的な活用について検討すること。ピア・レスポンスによる協働活動を通して、自分の視点と他者の視点とを交流させ、レポートの考察を深めていただきたい。</p>
レポート課題 1	<p>1 章～6 章や参考図書を読んで、ID の定義と背景となる学習理論についてまとめ、教材で紹介されている OPTIMAL モデルの概要を解説する。(3,000 字～4,000 字)  <b>留意点</b>：ID モデルは学習理論によって異なること、OPTIMAL モデルにはどのような特徴があるかを分かりやすく整理すること。</p>
レポート課題 2	<p>言語教育や異文化間教育における e-Learning や ICT 利用の実践例(論文・報告書)を検索し、事例を 2 つ取り上げて教材の 7 章と同様に OPTIMAL モデルを枠組みに分析し、その結果について論じる。(3,000 字～4,000 字)  <b>留意点</b>：マイクロデザインとマクロデザインに分けて整理すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 栗田佳代子, 日本教育研究イノベーションセンター 編著            教材名： 『インタラクティブ・ティーチング—アクティブ・ラーニングを促す授業づくり—』(河合出版, 2017 年) ISBN:978-4-7772-1794-6 2,500 円+税            講義動画：<a href="http://www.utokyoofd.com/mooc/contents">http://www.utokyoofd.com/mooc/contents</a> (8 週間プログラム)            (東京大学ファカルティ・ディベロップメント HP 内)</p> <p>講義動画は、JMOOC 講座として配信されたもので、現在、東京大学の HP で広く公開されている。印刷教材は、その講義動画を学ぶための教材である。大学教員準備プログラムから生まれた講座であるが、アクティブ・ラーニングの手法やループリックによる評価など、インタラクティブ・ティーチングの理論や方法論が体系的に学べ、分野を問わず教師の能力開発に役に立つ。</p>
参考図書	<p>稲井達也, 吉田和夫編『主体的・対話的で深い学びを促す中学校・高校国語科の授業デザイン：アクティブ・ラーニングの理論と実践』ISBN: 978-4762026720 2,100 円+税            吉田晴世・野澤和典 編著『最新 ICT を活用した私の外国語授業』(丸善プラネット, 2014 年) ISBN: 978-4863451971 2,700 円+税</p>
履修上のポイント	<p>印刷教材の課題に取り組みながら、8 週間のプログラムを各自進める。学習過程での疑問や意見は manaba folio の掲示板に掲載し、受講者同士やり取りをする。オープンエデュケーション教材を使った学びの実体験について、学びの内容と学習方法をクリティカルに検討する。参考図書や論文をできるだけ参照して、自分の現場を念頭に置いた授業デザインを考案する。            ピア・レスポンスによる協働活動を通して、自分の視点と他者の視点とを交流させ、レポートの考察を深めていただきたい。</p>
レポート課題 1	<p>8 週間の講義動画による学習から、何を学んだか、オープンエデュケーション教材を使った学びの利点と問題点は何かについて論じる。(3,000 字～4,000 字)  <b>留意点</b>：講座による学びは、教材の該当箇所分かるようにまとめること。</p>
レポート課題 2	<p>自分の教育現場を対象に、e-Learning, ICT を利用したインタラクティブな授業なデザインを立案してシラバスを作成し、その特徴や期待される効果について論じる。(3,000 字～4,000 字)  <b>留意点</b>：目的や目標の記述や評価の方法などシラバスの記述方法は、基本教材 2 の第 5 章に則ること。ひとつのコースを計画すること。</p>